大学院 建築学研究科

2021年度(設計)

社会的結びつきを考慮した内向型ワークスペースにおける形態条件の提案

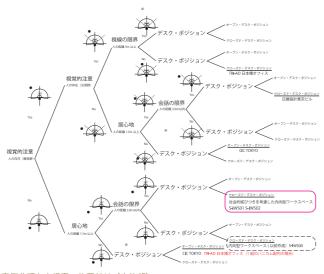
―視野と距離を用いた物理的形態条件の事例分析による検証と提案―

新開 章敬

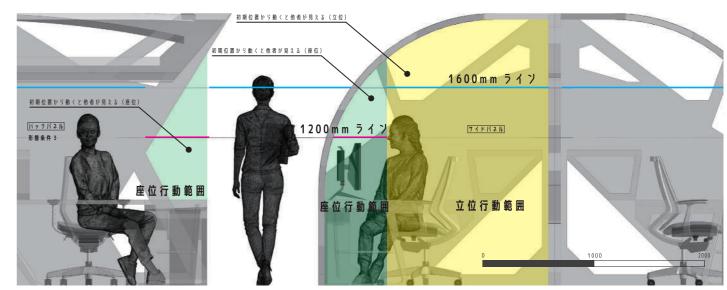


内向型ワークスペース イメージパース

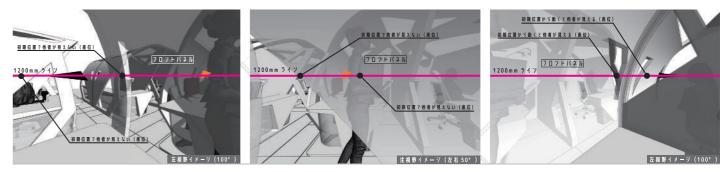
一度社会人として仕事を経験した大学院生が、自らの経験を基に、現 在のオフィス空間に疑問を抱き、アフターコロナにおけるオフィス空 間のあり方を模索したものである。一般にワークスペースは多種多様 で、集中とコミュニケーションを組み合わせた形態が見られる。しか し、日本で主流の間仕切りのないオープンプラン型オフィスは集中し にくく、親密なコミュニケーションが促進されにくい。そこで本提案 では中小企業における社会的結びつきを考慮した内向型ワークスペー スのモデルを計画した。他者の存在に敏感な内向型の性格を持つオフ ィスワーカーが、無理せず、ありのままの状態で働ける環境が構築さ れた。(指導教員 井上普一)



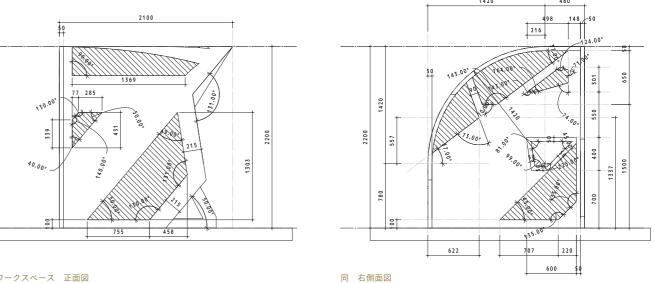
事例分類と本提案の位置付け(赤枠部)



ワークスペースの形態とオフィスワーカーの行動・姿勢との関係



ワークスペースを覆うパネル・開口部により、周囲の他者の存在が調整される



ワークスペース 正面図